

再生素を使用しています。

授業科目区分		科 目 名		単 位	科目コード	開講時期	履 修 方 法		
(全課程からの提供) リベラルアーツ系科目 文理横断		I o T 基礎 (春期集中講義)		1	G258-01	2 期 (後学期)	修学規程第 4 条を参照		
担当教員名		研究室	内線電話番号	電子メール I D			オフィスアワー		
授 業 科 目 の 学 習 ・ 教 育 目 標									
キーワード			学習・教育目標						
1	IoT		・ IoTシステムを構成する基本技術を体系的に理解する。 ・ IoTシステムの活用事例を理解する。 ・ IoTシステムを実際の課題解決に活用する提案を行える。						
2	エッジコンピューティング								
3	クラウド								
4	センサ								
5	アクチュエータ								
授業の概要および学習上の助言									
本科目では、IoTシステムを構成する基本技術について体系的に学びながら、どのような現場でIoTを活用できるかについて学ぶ。									
・ IoTシステム構成と構築技術 (IoTシステムアーキテクチャ、IoTサービスプラットフォーム) ・ センサ／アクチュエータ技術と通信方式 (IoTデバイス、ネットワーク、LPWA、プロトコル) ・ IoTデータ活用技術 (ビッグデータ分析技術、活用事例) ・ IoT情報セキュリティ対策技術 (脅威と脆弱性、セキュリティ対策技術、情報セキュリティの標準と法制度) ・ IoTシステムのプロトタイピング技術 (プロトタイピング活用) 本科目の履修により、IoTシステム技術検定試験の「基礎」から「中級」を合格できるレベルの知識を習得することを目標とする。 ※本科目は、教科書の指定はなく、授業で使う資料は配付する。									
【教科書および参考書・リザーブドブック】 教科書：指定なし 参考書：指定なし リザーブドブック：指定なし									
履修に必要な予備知識や技能									
履修に必要な専門知識は必要ないが、基本的なコンピュータリテラシー（Windows/Officeの操作、タイピングなど）を修得していることが望ましい。									
No.	学科教育目標 (記号表記)		学生が達成すべき行動目標						
①	H		IoTシステムを構成する基本技術について説明できる。						
②	H		IoTシステムの活用事例について説明できる。						
③	G, H		IoTシステムを実際の課題解決に活用する提案を行える。						
④									
⑤									
⑥									
達 成 度 評 価									
評価方法 指標と評価割合		試 験	クイズ 小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品	ポートフォリオ	その他	合 計
総合評価割合		0	0	80	20	0	0	0	100
総合力指標	知識を取り込む力	0	0	40	5	0	0	0	45
	思考・推論・創造する力	0	0	40	10	0	0	0	50
	コラボレーションとリーダーシップ	0	0	0	0	0	0	0	0
	発表・表現・伝達する力	0	0	0	5	0	0	0	5
	学習に取組む姿勢・意欲	0	0	0	0	0	0	0	0

※総合力指標で示す数値内訳は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価の要点

評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点
試験	①	
	②	
	③	
	④	
	⑤	
	⑥	
クイズ 小テスト	①	
	②	
	③	
	④	
	⑤	
	⑥	
レポート	①	知識共有レポート：3回 プロトタイピングレポート：1回
	②	
	③	
	④	
	⑤	
	⑥	
成果発表 (口頭・実技)	①	IoTシステムを実際の課題解決に活用する提案：1回
	②	
	③	
	④	
	⑤	
	⑥	
作品	①	
	②	
	③	
	④	
	⑤	
	⑥	
ポートフォリオ	①	
	②	
	③	
	④	
	⑤	
	⑥	
その他	①	
	②	
	③	
	④	
	⑤	
	⑥	

具体的な達成の目安

理想的な達成レベルの目安	標準的な達成レベルの目安
<ul style="list-style-type: none"> IoTの基本技術について深く理解し、他者にわかりやすく説明できる。 IoTシステムを構築するための基本技術を深く理解し、実際の構築に取り組むことができる。 IoTシステムを実際の課題解決に活用する提案を行える。 	<ul style="list-style-type: none"> IoTの基本技術について理解している。 IoTシステムを構築するための基本技術について理解している。 IoTシステムの活用事例について理解している。

C L I P 学習プロセスについて

一般に、授業あるいは課外での学習では：「知識などを取り込む」→「知識などをいろいろな角度から、場合によってはチーム活動として、考え、推論し、創造する」→「修得した内容を表現、発表、伝達する」→「総合的に評価を受ける、Good Work!」：のようなプロセス（一部あるいは全体）を繰り返しながら、応用力のある知識やスキルを身につけていくことが重要です。このような学習プロセスを大事に行動ください。
 ※学習課題の時間欄には、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習時間全体としては、各授業に応じた時間（例えば2単位科目の場合、予習2時間・復習2時間／週）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

回数 日付	学習内容	授業の運営方法	学習課題(予習・復習)	時間(分)※
第1回 / /	<ul style="list-style-type: none"> ・授業ガイダンス ・IoTシステム構成と構築技術について体系的に学ぶ。 ※実務家教員による授業。	講義と演習	講義内容のレポートを作成する。	100
第2回 / /	<ul style="list-style-type: none"> ・センサ／アクチュエータ技術について体系的に学ぶ。 ※実務家教員による授業。	講義と演習	講義内容のレポートを作成する。	100
第3回 / /	<ul style="list-style-type: none"> ・IoTで使われる通信方式について体系的に学ぶ。 ※実務家教員による授業。	講義と演習	講義内容のレポートを作成する。	100
第4回 / /	<ul style="list-style-type: none"> ・IoTデータ活用技術・活用事例について体系的に学ぶ。 ・IoT情報セキュリティ対策技術について体系的に学ぶ。 ※実務家教員による授業。	講義と演習	講義内容のレポートを作成する。	100
第5回 / /	<ul style="list-style-type: none"> ・IoTシステムのプロトタイピング技術について体系的に学ぶ(1)。 ※実務家教員による授業。	講義と演習	講義内容のレポートを作成する。	100
第6回 / /	<ul style="list-style-type: none"> ・IoTシステムのプロトタイピング技術について体系的に学ぶ(2)。 ※実務家教員による授業。	講義と演習	講義内容のレポートを作成する。	100
第7回 / /	<ul style="list-style-type: none"> ・IoTシステムを実際の課題解決に活用する提案を検討し、発表する。課題は、自身の課題または実社会の課題とする。 ※実務家教員による授業。 ※討論を行う授業。	演習、発表資料作成、発表	IoTシステムの活用提案を発表資料にまとめ、発表する。発表資料は提出する。	100